

大阪児童福祉事業協会だより

発行
 社会福祉法人
 大阪児童福祉事業協会
 清心寮
 くるみの家
 リーフ
 アフターケア事業部
 ホームそらまめ

子ども達に
 夢を与える施設に

大阪児童福祉事業協会

理事長 家常恵



長期に亘ってその任にあられた前理事長がご逝去された後を受けて若輩の私が理事長の重責を受けすることになりました。幸い法人役員には見識のある方に、又、職員も優秀な方々ばかりですので希望と安堵感を持っております。今後とも、皆様のご支援、ご指導をいただき忠実に職務を果たしたく

思っております。

さて、当法人は昭和30年代後半から、児童養護施設退所後の指導や保護を行う「アフターケア」の必要性のため昭和39年に清心寮が開設されました。当初は創設主旨に沿ってアフターケアを必要とする高学年の児童が入所していましたが、後に現在の児童養護施設に変更して今日に至っています。阪本寮長をはじめ若い職員達の資質の良さと熱意により、入所児童の処遇が良好であるとずっと評価されています。私も最近数度施設訪問しましたが子ども達の明るく伸び伸びとした姿を見ることが出来嬉しく思いました。又、里親育成や母子指導などの付帯事業も着実に行われています。目下の課題として建物の改築が検討されていま

す。快適な居住空間を実現したいものです。

清心寮の創設時の主旨を踏まえて、昭和39年に施設退所児童のために生活指導雇用主の開拓をすべく、当法人にアフターケア事業部が設置され北原氏、藤川氏らの尽力により今日では全国をリードする存在となりました。府下全施設の子ども達を支援する存在として益々発展していった欲しいものです。

又、近年、アフターケアのバックアップ施設として児童自立援助ホームが設置され男女青年の安心と憩いの場となり、やがて社会に巣立つて自立していつていきます。藤川ホーム長のもと楽しくも金銭管理などキチンとした指導が行われています。

このように、大きく3つの事業がそれぞれ場所が異なっていますが、法人全体の問題として有機的かつ円滑に発展させることが必要ですので、各事業所のリーダーをはじめ職員の皆様の二層のご活躍を念じる次第です。

最後に一言。私も含めてのことですが、児童福祉に携わる人間として常に専門性と人間性の重要さが言われます。ハンディキャップを持つ子ども達に良い影響を与えるためには職員一人ひとりが自己肯定が出来、人生をしっかりと生きている実感を持たねばなりません。そして、自分が担当する子ども達の思いをとことん受容せねばなりません。その為には、専門的知識や技能を高めることは勿論、自分自身の人間を大きくすべく人間性を磨くことが最も大切だと思います。教養書、小説、音楽、絵画、スポーツ等へ広くチャレンジして下さい。かつては人生50年と言われる時代もありましたが、現代は人生80年、90年と言われるようになりました。自分の人生を豊かにする事によって他者へ良い影響を与えることが出来るわけですから、最終的にはどんな苦難にも負けない強い人格を目指して頑張りましょう。そして常に「弱者の側に着く」人間に！